

ハスモンヨトウの飛来数が多い ～野菜類、花き類、大豆などでの発生に注意してください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

秋田市防除適期決定ほにおけるハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、6月5半旬から多くなり、6半旬に急増して、その後も7月2半旬まで多く推移している。6月1半旬から7月2半旬までの総誘殺数は840頭（平年153.7頭）で多かった（図－1）。また、能代市防除適期決定ほ（2023年調査開始）における6月1半旬から7月2半旬までの総誘殺数は1,067頭で、多発年だった2023年の1,030頭とほぼ同等だった（図－2）。

7月11日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い、降水量はほぼ平年並と予報されている。

以上のことから、ハスモンヨトウの飛来数が多いため、今後、野菜類、花き類、大豆などで幼虫による食害が多くなるおそれがあることから、以下の防除対策を行う。

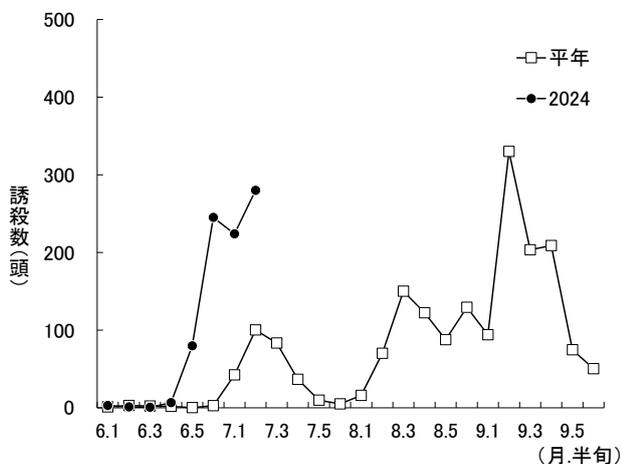
2. 防除対策

- 1) 本虫の幼虫は広食性で多くの農作物を食害する。ほ場周辺の雑草は発生源になるため、除草に努める。
- 2) 本虫は卵塊で産卵するため、若齢幼虫は群生して食害する。中齢期以上の幼虫になると、分散して食害するようになり、被害が大きくなる（図－3、4、5、6）。そのため、ほ場をよく観察し、卵塊や若齢幼虫の群生が見られる葉は取り除き、幼虫を捕殺する。
- 3) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するので若齢期のうちに薬剤防除を徹底する。
- 4) 抵抗性害虫の出現を回避するため、同一RACコードの薬剤は連用しない。

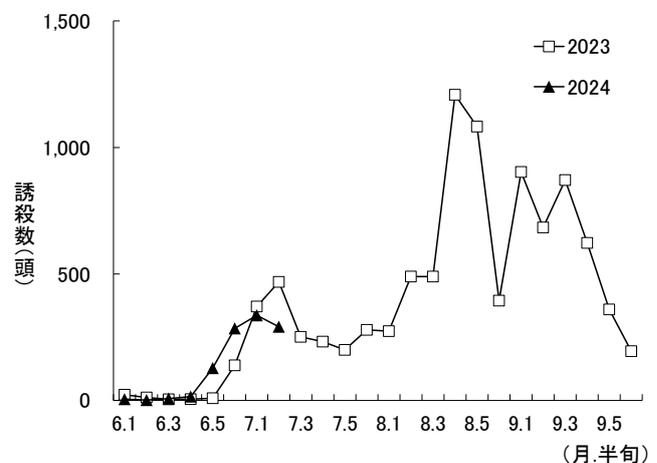
また、薬剤への感受性の低下が疑われる場合は、本虫を対象とした防除薬剤として使用しない。

- 5) 施設栽培では、開口部全てに防虫ネット（目合い4mm以下）を設置し、本虫の施設内への侵入を防ぐ。

3. 資料



図－1 秋田市防除適期決定ほのフェロモントラップにおける誘殺数の推移



図－2 能代市防除適期決定ほのフェロモントラップにおける誘殺数の推移



図-3 卵塊



図-4 大豆の食害（左：葉裏、右：葉表）



図-5 ねぎの食害（中齢幼虫）



図-6 えだまめの食害（老齢幼虫）

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/	